

価値創造の歩み

当社の歴史は色彩の可能性を追求し、化学の力で社会の課題を解決してきた「技術革新」の歴史です。創業以来培ってきた「有機無機合成・顔料処理技術」「分散加工技術」「樹脂合成技術」を核に、私たちは時代の要請に応じた高性能材料を世に送り出してきました。現在はこれら3つのコア技術を高度に融合させ、サステナブルな社会の実現に向けた新たな価値を創造しています。私たちはこれからも社会から必要とされる存在であり続けるため、イノベーションへのたゆまぬ努力を続けていきます。

顔料の国産化を目指し創業

創業者・高橋義博は戦前、顔料の多くを輸入に頼っていたことを憂い、1931年に顔料の国産化を目指して彩華顔料合資会社を創業しました。それ以来、日本の近代顔料(合成顔料)の普及に向けて、研究・開発に尽力しました。

顔料製造が軌道に乗った1939年には彩華色素工業株式会社と改めたのち、1944年に同業2社を吸収合併して大日精化工業株式会社に改称、当社の基礎を確立しました。



創業者 高橋義博



Dainichiseika

1950年に制定された当社のロゴマークは、水陸両棲の「ペリカン」と「地球」をモチーフとしています。美しい色彩を携えて、日本中に歩みを進め、世界へと羽ばたく水鳥の王者のようになりたいと願う、創業者と従業員の想いが込められています。

技術開発・生産体制が整備され、国内市場へ浸透

第二次世界大戦後、再スタートを切った当社は「合成樹脂着色剤」、「顔料捺染着色剤」、「化・合繊原液着色剤」の研究開発を戦後計画の3本柱としました。1953年までにこれら3本柱の技術が完成し、1968年には東海工場(現・東海製造事業所)が完成しました。ここから日本の経済成長とともに国内市場での製造・販売を本格的に進めました。

「国産化」の技術を海外市場へ展開

1980年代から日本企業の海外進出が積極化するなか、そのニーズに応えるため展開エリアを拡大していきました。現在では海外10か国・地域に15営業・生産拠点をもち、世界中のお客様の開発ニーズに応える体制を構築しています。

3つのコア技術発展の歩み

機能性マテリアル分野のエクセレントカンパニーを目指して

1931年～1950年代 創業・黎明期

「顔料合成技術」の確立・初の国産化の達成

1931年の創業時より輸入に依存していた顔料の「国産化」を命題とし、複数種の「顔料合成技術^{*1}」を確立していきました。また戦後の産業復興期においては、急速に普及する合成樹脂や合成繊維など多様な素材に対応する着色剤を開発しました。

- 1938年 ● 紺青・黄鉛・染付顔料・アゾ系顔料の本格生産開始
- 1944年 ● オフセットインキ事業へ参入
- 1948年 ● 塩化ビニール用着色剤「ビニール・トナーカラー」を開発・上市
- 1949年 ● 「フタロシアニングリーン」を開発・上市
- 1950年 ● 塩化ビニール用グラビアインキ「ビニールシートインキ」を開発・上市
- 1953年 ● 水性捺染着色剤「ニューラクチミンカラー」を国産化、ビニロン・レイヨン繊維用原液着色剤「スピナーファストカラー」を開発
- 1955-1956年 ● ポリオレフィン用「ドライカラー」・「マスターバッチ」を開発・上市

※1 化学反応制御と微粒子の物性制御

1960年～1990年代 成長・拡大期

「分散加工技術」と「樹脂合成技術」の進化

高度経済成長期からバブル期にかけて「分散加工技術^{*2}」をさらに高度化させ、さまざまな素材に対応した着色剤を提供してきました。また「樹脂合成技術^{*3}」ではウレタン樹脂を中心に目標性能に合わせる樹脂設計・樹脂合成技術へと進化させました。これら技術のシナジーにより、従来の「色材」の枠を超えて機能性マテリアルへと事業領域を拡大しました。

- 1967年 ● ウレタン樹脂事業へ参入
- 1970年代 ● 食品包装フィルム用グラビアインキを開発・上市
- 1975年 ● プラスチック着色料分野における「コンピュータカラーマッチングシステム」を発表
- 1976年 ● 紫外線硬化型コーティング剤事業へ参入
- 1980年 ● 「キナクリドン顔料」を上市
- 1985年 ● 情報表示・記録分野へ参入、天然物由来高分子事業へ参入、シリコン・ウレタン樹脂開発
- 1986年 ● 軟質・硬質塩ビ両用着色剤「ディスコール P-4000シリーズ」を開発・上市
- 1998年 ● IJ分散体開発

※2 微粒子の分散および分散体の物性制御

※3 特殊樹脂の合成と応用

2000年代～現在 発展期・革新期

機能性マテリアルへの進化と価値創造

デジタル化や環境意識の向上といった社会変容に対し、当社の技術はさらなる融合を図っています。有機無機合成・顔料処理、分散加工、樹脂合成の各技術を横断的に組み合わせることで、情報機器(カラーフィルタなど)や、環境配慮型材料(ヒドロキシポリウレタンなど)の開発など、付加価値の高い機能性マテリアルを開発・提供しています。現在開発ステージごとの研究開発体制^{*4}のもと、基礎研究から応用まで一貫した研究開発を推進し、社会課題の解決に資する新価値創造を継続しています。

- 2003年 ● カラーフィルタ用顔料開発
- 2005年 ● 水性フレキシインキ「ハイドリックFCシリーズ」を開発・上市
- 2010年代 ● 熱伝導性材料・放熱性材料分野へ参入
- 2015年 ● 水性表面処理剤を開発・上市
- 2016年 ● バイオマスインキ「NT-HRカラー」を開発・上市、ヒドロキシポリウレタンを開発・上市

※4 研究開発本部：機能性素材の開発および新たなコア技術確立のための基礎研究の推進
未来共創本部：新たな価値創造に向けた社内外のステークホルダーとの協働による研究および事業化の推進
事業創造本部：分散加工技術に関わる技術テーマの発掘・研究および事業化の推進
技術管理本部：技術に関する全社的な支援



※2021年度以降は収益認識基準を適用し、売上高が約400億円減少しています。

価値創造プロセス

ブランドメッセージ

彩りの、その先へ。
今日の未知は、未来への道

INPUT

価値創造の源泉

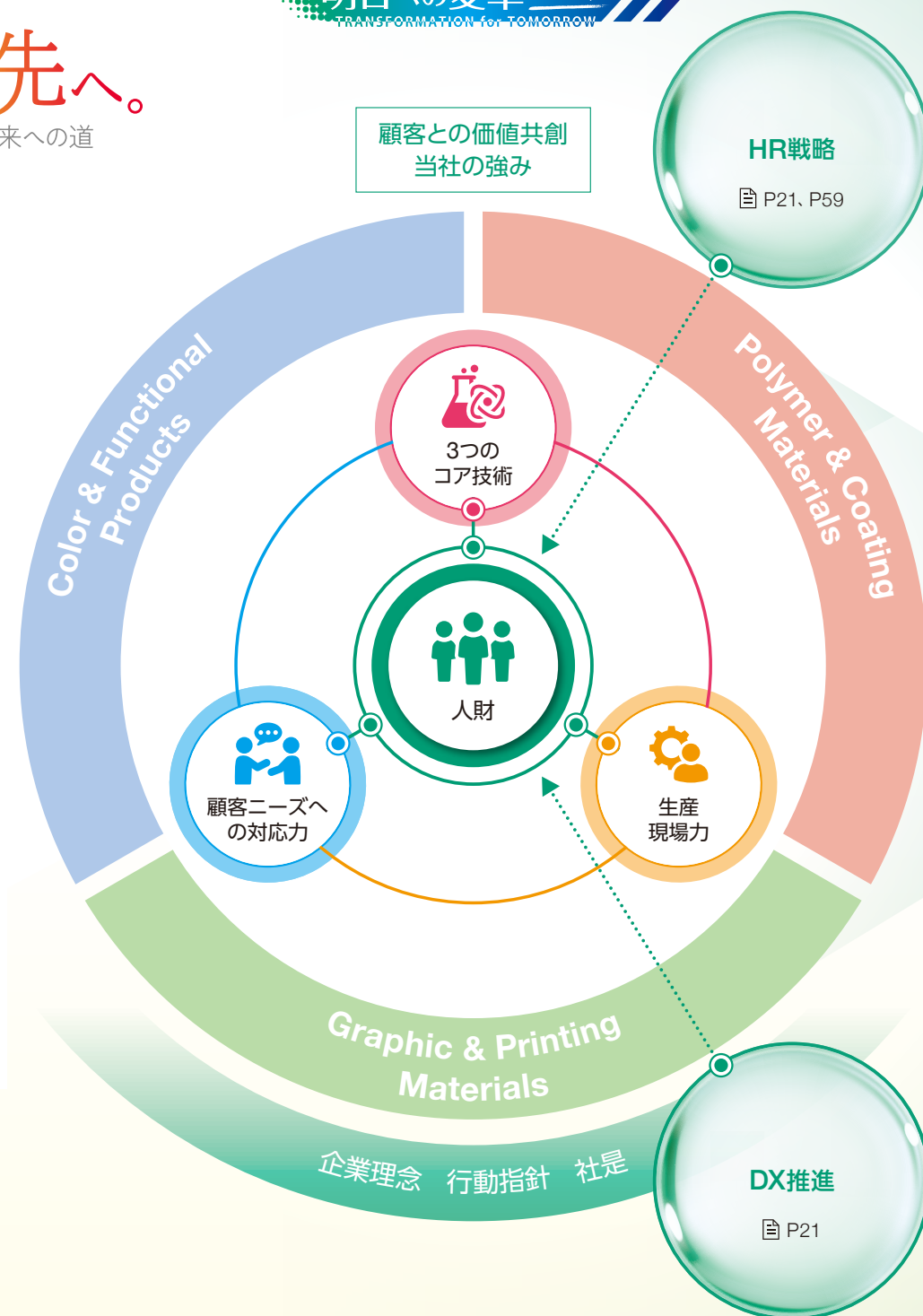
財務資本	
総資産	205,444 百万円
純資産	141,210 百万円
資本金	10,039 百万円
人的資本	
従業員数	3,514 人
知的資本	
研究拠点数	国内 6 拠点
製造資本	
国内	13 拠点
海外	11 拠点
自然資本	
総エネルギー	31,216 kJ (原油換算値)
純揚水量	2,690 千m³
社会的関係資本	
ステークホルダーとの共生	

※2026年3月末時点 連結ベース

価値創造基盤

明日への変革 2027

TRANSFORMATION FOR TOMORROW



社会課題(外部環境・事業環境)

- 気候変動
- 資源循環
- 国内人口減少
- 人権尊重
- 環境汚染
- 世界的食料危機
- 地政学的調達問題
- サプライヤーの事業継続問題

OUTPUT

重点事業とターゲット市場

新規発展市場 目 P36

IT・エレクトロニクス
機能性材料ライフサイエンス・
パーソナルケア

モビリティ

環境配慮型
パッケージング

継続発展市場 目 P36

中期経営目標 目 P19

- 売上金額：1,300億円
- 営業利益：78億円
- ROE：5.0%以上、ROA：4.3%
- エンゲージメント指数 56→59ポイント
- CO₂排出量 31%削減

OUTCOME

機能性材料分野の
エクセレントカンパニーになる

- 革新的な独自技術
- サステナブルな成長に貢献
- ステークホルダーの期待に応える

目 P19



社会とともに発展

- 次世代に豊かな未来を
- 機能性材料を核とした技術
- 社会に必要な価値を創出



環境との共生

- 脱炭素と資源循環に貢献
- 環境に配慮した製品開発
- 環境に配慮した資源利用

ステークホルダー・
エンゲージメント向上

- ステークホルダーの信頼、期待、共感
- 働きがいと成長を支援
- ステークホルダーに成果を公平に還元